



H18. 1.20 1176
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 平成17年全国主要漁港(市場)水揚げ数量 焼津漁港が4年連続でトップ

水産経済新聞ではこのほど、平成17年全国主要漁港(市場)の水揚げ高(概数)をまとめました。それによると、焼津の水揚げ数量(23万ト：前年比100.1%)が4年連続で首位となり、以下銚子(21万5千ト：前年比107.0%)、石巻(16万5千ト：前年比130.6%)の順となりました。

焼津漁港の平成17年の水揚げは焼津魚市場が数量20万2,573ト(前年比3%増)、金額385億3897万円(税込、2%増)、小川魚市場が数量2万7,533ト(17.1%減)、金額18億1,626万円(税込、31.3%減)となり、2市場合計の漁港別水揚げ数量で全国一位となりました。

焼津魚市場の水揚げ数量は、遠洋竿釣船の南方カツオが前年比ほぼ半減し、ピンナガも大幅減となりましたが、東沖カツオが3倍に増え、数量の多い海巻船のカツオが増加したことなどから3%増となり、また、ピンナガと海巻キハダの平均単価が大幅に上がりました。

一方、小川魚市場の水揚げ数量は主力の棒受網船、近海旋網船のゴマサバが、鮮魚向けとなる大きなサイズが獲れず数量、金額ともに減少しました。

2. サクラエビ平成17年秋漁の水揚げ 456トン・9億7千万円

県水産試験場が、このほどまとめたサクラエビ漁況によると、昨年の秋漁は11月3日から12月27日までに14日の操業が行われ、蒲原・由比・大井川の3港に総計456ト・506千円、9億712万円が水揚げされました。

これは一昨年の秋漁を漁獲量で155ト(51.9%)、金額で1億3,750万円(17.9%)いずれも上回った一方、漁期平均単価はキロ1,987円と前年のキロ2,561円を下回りました。

また、昨年の春・秋漁期を合わせた年間水揚げは1,725ト、43億6,704万円で、量では101ト前年より下回ったものの、金額では1億6,095万円上回りました。

3. 2月からJF全漁連の「JFチャンネル」スタート 漁海況情報・警報などを配信

JF全漁連がモバイル放送(株)のデータ情報サービスを利用して昨年6月から試験的に開始していた「海洋情報チャンネル」が、2月1日から海上ユーザー向け情報サービス「JFチャンネル」として生まれ変わります。

JFチャンネルはこれまでの実績をもとに、さらに内容の充実を図り、気象庁、海上保安庁・水産試験場・宇宙航空開発機構などからの情報をもとに水温、海流などの海況情報や、台風情報などの気象情報、航行警報などの各種警報、各県水産試験場情報、各JF情報など、海上ユーザーに役立つさまざまな情報を提供します。

配信コンテンツ 海況情報：日本全体、北海道周辺海域、日本海域、日本南方海域、九州・沖縄海域における海面水温・水深100m、水温、海流・海色・海面高度 気象情報：台風情報、外洋波浪予報、24時間予想天気図、48時間予想天気図、各地の天気 各種警報：管区ごとの地域航行警報、ロケット打ち上げ情報 漁海況情報：各県水試情報

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

JF情報：各県JF情報 視聴料金：月額1,000円(税込) 問合せ先：JF全漁連購買事業部資材課 TEL:03-3294-9628

4. 原油価格再び高騰 漁業への影響が懸念される

漁業用燃油、発砲スチロール容器などの原料となる原油市況が再び騰勢を強めています。昨年は一時、国際指標となるWTI価格で1当たり70ドルを突破しましたが、その後は60ドル前後に落ち着き、高値であったものの安定的に推移していました。

しかし、今年に入って世界的な寒波が続いていることに加え、ナイジェリアの反政府勢力が石油施設を攻撃するなど、政情不安が表面化し、17日には166ドルを超え、約3ヶ月ぶりの高値となっています。

現在の高値原料が実際に影響するのは数ヵ月後になると予測されますが、水産業界への影響も必至の情勢です。国内では厳冬によりエネルギー需要が増大していたところに、為替レートも円安に触れたため、輸入価格が跳ね上がり今後も原油価格の動向を注視していく必要があります。

5. 魚を食べると心筋梗塞の発症60%減少

全国4万人の男女を調べた結果、魚を多く食べる人ほど心筋梗塞などの虚血性心疾患の発生リスクが減少していることが、厚生労働省研究班の調査で分かりました。

これは魚に含まれるDHAやEPAといった脂肪酸が血栓を作りにくくするため、魚の摂取が心疾患予防につながることを確認されたのは初めてです。

調査は岩手県二戸、秋田県横手、長野県佐久、沖縄県中部の4保健所管内で、40～59歳の男女約4万人を約11年間追跡調査し、虚血性心疾患になった258人を、魚を食べる量により5グループに分け比較しました。

その結果魚の摂取量が週1食(1日当たり20g)程度の人たちと比べると、週5食(同110g)程度食べるグループは30%、週8食(同180g)程度では57%も心筋梗塞等を発症するリスクが低減しました。1日約20gと最も少ないグループの危険性を「1」とした場合、約180gと最多のグループは、虚血性心疾患全体で0.63に、心筋梗塞と確定診断されたケースに限ると0.44にそれぞれ低下しました。

刺身一切れは約15グラム、一人前は約80グラム。魚を食べない人に比べ、少しでも食べる人は虚血性心疾患の危険性が低くなります。EPAやDHAはアジ、イワシ、サンマ、サバなど脂肪の多い青魚に豊富に含まれています。

6. 新刊図書紹介 「魚との知恵比べ - 魚の感覚と行動の科学 -」 川村軍蔵著

成山堂書店が昨年9月に2訂版を発行した「魚と知恵比べ - 魚の感覚と行動の科学 -」が、漁業者のみならず一般の釣り人などからも注目を集めている。

同書には魚の学習の能力という視点から、釣られやすい魚と釣られにくい魚の遺伝的な検証を行うなど、ユニークな実験などを交えて説明されています。テーマも多岐にわたり、「眼」「好む色」「好む音と嫌う音」「好む味と匂い」を科学的に解説しています。このほか、伝統的な漁法である集魚灯漁法や人工魚礁、かご漁具なども科学的な観点から語られています。

価格：1,600円(税込) 問合せ先：成山堂書店 TEL:03 3357 5861

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう